

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・暖かい日が続いたこともプラスとなり、売上は前年比109.6%、一昨年比110.4%となった。外国人観光客による売上が全体の33%を占めるなど、好調だったほか、国内客の客単価も10%上昇した。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・春になるにつれて販売量が増えてきている。
		百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・前年と違い天候が安定していたこと、雪解けが早かったことから、春物の動きが好調である。特に婦人靴、衣料品などの動きが良い。来客数が安定していることで食品も前年実績並みで推移している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が回復傾向にある。また、アルコール類の売上が回復しているなど、生活必需品ではないし好品の売上が増加しており、景気はやや良くなっている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客単価が若干低下しているものの、前年の衣替えの際に買い控えしていた客が多かったことから、客単価の落ち込み分を上回る販売量の増加がみられる。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・週末のイベントの来客数が増えている。それに伴い受注量も増えてきている。中古車のイベントも盛況であり、前年を上回る受注量となっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	来客数の動き	・雪解けが早かったため、自動車用燃料の販売が好調である。ただ、暖房用灯油の販売が低調であった。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北海道ふっこう割の駆け込み需要の影響で3月の売上は前年を上回った。ランチは気温が低下した下旬の来客数が減少したが、夜間は特に地元の団体客による利用が増えた。月末になり顧客の一部が顔を見せなくなっていることから、統一地方選挙に向けて選挙活動が忙しくなっているとみられる。市内のホテルでは、卒業旅行や家族旅行での利用増加が著しいようだ。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・北海道ふっこう割がプラス要因となり、景気はやや良くなっている。冬季スポーツイベントなどを目的とした客も効率良く取り込むことができている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・災害時の通信サービスに優位性があることを客に理解してもらえていることで、他社から乗り換える客が想定の数倍以上みられるなど、販売量が伸びている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月27日時点の来客数が前年比106.6%となるなど、上向きで推移している。こうした傾向は3か月前から継続している。今年の冬は穏やかな天候で個人客の動きが活発であったほか、北海道ふっこう割の効果でツアー客の入込が好調であり、そのことが追い風となっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今年は例年よりも雪解けがかなり早かったため、来客数が増加している。技術売上及び関連商材の売上は共に5%程度の増加となっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して僅かではあるが、閑散期の観光客数が増加傾向となっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・日々の販売額に大きな変化はみられない。ただ、客の動きをみると節約志向が強まっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民については、日配品の購入目的以外に来街する客が少ない。また、春休みの学生の遊興施設への立入りについては、区内外歩行者の様子をうかがう限り、例年以下とみられる。道内外からの観光客やビジネス客についても、駐車場やホテルの出入りをみる限り、例年以下とみられる。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は雪解けが早かったことから、売上の増加を期待していたが、大きな変化はなかった。景気は悪くないが、良い印象もない状況である。	

一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ 3か月前の12月は1年で最も多忙な月であるため、3月の売上は12月と比較すると良くないが、今年は月初めから売上が好調に推移しており、前年比110%を達成している。ただ、身の回りの景気が良いという実感は余りない。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・ 3月の来客数は横ばいで推移しており、購買率も横ばいが続いている。客単価が上向いていることから、全体売上はプラスとなっているが、単価上昇の要因は外国人観光客の恩恵による部分が大きく、一般客については客単価や購買率の低下傾向から脱却できていない。
百貨店（役員）	販売量の動き	・ 競合店が1月末で閉店したことの影響がいまだにみられない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ 買上点数や客単価は前年並みであるが、専門店を含めた全館での来客数が減少している。目的買いの客がほとんどであり、衝動買いをするような客は少ない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・ 来客数は増えているが、3月上旬の気温上昇に伴い、雪解けが一気に進み、例年よりも道路状況が格段に良いことが、広域からの集客につながっているだけである。客単価や購買商材の動向などに大きな変化はみられないため、景気は変わらない。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ 来客数の前年割れが続いている。3月はここ数か月で最も落ち込みが大きかった。天候の影響もあるが、これまで前年を下回ることのなかった平均買上点数が、3月は約2%落ち込んでおり、客の買い控えが感じられる。
スーパー（役員）	販売量の動き	・ 気温の変動が激しく、売る商材と売れる商材が絞れない状況となっている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ 時間帯によるが、観光客の流れが生じている地域が増えている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 来客数、販売台数共、前年並みであり、まだまだ足踏み状態が続くそうである。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ 例年、春休みは小さな子供連れの家族、若い世代の客が多い。また、ランチタイムは団体客が多く、特に国内観光客が目立っている。当地滞在中に3日連続で来店する客がみられるなど、サービス、料理に満足してもらっている様子もうかがえる。前月に引き続きアイドルタイムに来店する客も多く、スイーツやドリンクなどが売れている。売上は前年を50%以上上回るなど、好調が続いている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 様々な要因が複雑に絡み、売上が増加する日と減少する日がみられる。要因の特定は難しいが、レストランの現実として来客数が減少傾向にある。
スナック（経営者）	来客数の動き	・ 統一地方選挙を控えて売上がやや落ち込むとみられたが、結果的に影響はみられなかった。このまま良い状況で推移することが期待できる。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ 雪解けが早く、農家での作業着手が例年よりも早まっており、年度末における間際需要がさほどみられない。統一地方選挙もあるせいか、市場の動きは落ち着いている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ 法人需要について、ゴールデンウィークの長期化や消費税増税前の駆け込み需要などの影響がみられない。
タクシー運転手	販売量の動き	・ ほぼ前年並みの数字で推移しているものの、運転手の人手不足が深刻な状態となっている。公的な支援が望まれる。
タクシー運転手	単価の動き	・ 3月の全体的な売上は2～3割の落ち込みとなっており、2～3か月前と変わらない。タクシー部門は僅かではあるが増収となったが、そのほかの部門は厳しい状況が続いている。この先も変動はみられない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・ 売上は前月よりも良いが、前年並みの水準となっている。ここ3か月の平均をみる限り、景気は良くなっていない。

	美容室（経営者）	お客様の様子	・今年のゴールデンウィークの10連休を手放しで喜んでいる客の少なさに驚いている。10連休により、売上にどのような変化が起こるのかを今から心配している。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の多くが、消費税増税を前にして、購入に慎重な姿勢を取っている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順による季節外れの大雪などで来客数が10～15%減った。	
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・3か月前と比べて、全体売上の前年比が低下している。食品などの身の回り品は好調であるが、宝飾、時計などの高額品の動きが悪くなっている。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前の12月は年末商戦の盛り上がりもみられず終わった。その後、1月に競合店が閉店したことで、その店の客が当店に流れてくるようになり、2月は久しぶりに前年並みの売上となったが、3月は以前と同様の下降トレンドに入っている。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年の秋口以降、データからも店頭での実感からも、客の来店頻度が明らかに低下している。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数の割に売上が落ち込んでいる。ビールなどの嗜好品の売上が大きく落ちていることから、客の生活に余裕がないことがうかがえる。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・3月の売上は前年をやや下回った。来客数も前年を下回っており、1人立ちセットを購入する客も減っている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・冬季観光と春の花観光の端境期に当たるため、国内客、外国人観光客共、観光需要の少ない時期となっている。ただ、ビジネス客は増加傾向が続いている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・毎回、選挙があると客足が鈍る傾向にあり、3月の景気はやや悪くなっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年3月は12月に次いでタクシーの売上の多い月であるが、今年は20日頃まで天気の良い日が多かったこと、雪の日が少なかったことなどから、タクシー1台当たりの売上が2%ほどマイナスとなっている。会社の売上も乗務員不足で稼働率が落ちていることから、前年比マイナス10%と大きな落ち込みとなった。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・2月後半から3月にかけての注文が減少している。観光客やイベント関係での利用も減少してきている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・前年と比較すると、年度末を迎えての客の利用頻度が今一つである。統一地方選挙の影響が出ている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株式市場が低迷していること、中国と米国の貿易摩擦が激化していることなどから、客のムードがとても悪い。	
	×	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・客単価が低下している。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内客、外国人観光客共に来客数が増えてこない。特にアジアからの団体客の減少が目立っている。また、これまで伸びていた宿泊単価、消費単価もマイナスに転じてきている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・降雪量の少なさによりタクシー利用が激減している。また、消費税増税を前にして食料品などの値上げが相次いでいることもあり、消費者のマインドは低下する一方である。
企業 動向 関連  (北海道)	-	-	-	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件が動き始めた。外国人観光客の増加に伴いニセコなどでの需要が活況を呈している。	
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・農作物出荷の動きは一段落しているものの、本州からの建築資材、飲料容器の物量が伸びている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・米中貿易摩擦の影響により一部業種の生産、輸出に陰りがみられるほか、公共工事請負金額が前年を下回る傾向で推移しているものの、観光関連の業種では北海道ふっこう割の効果もあり、国内客、外国人観光客共に前年を上回る傾向にある。個人消費の動きにも底堅さが感じられる。総じてみると、道内景気は3か月前に比べてやや良くなっている。	

	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・今年には雪解けが早いこともあって、年度内工事が順調にしゅん工を迎えている。完工高、利益共、見込みどおりの数字を確保できている。
	司法書士	取引先の様子	・観光業は好景気が続いているが、不動産業や建築業は人口減少などの影響で伸び悩みの状況が続いている。業種や企業ごとに景気判断が異なっていることから、地域全体としての景気は変わらないままである。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先へのヒアリングにおいて、景気は良くないとする回答が多くを占めている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・3月に入り、売上が前年から10%強ダウンしている。また、ここにきて道内のホテルの安値が目立ってきている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・台風被害からの復興需要も落ち着き、機械の設備投資意欲も落ちてきているが、現状、取引先から受注量が大きく減少したという話は聞こえず、取引先の様子も安定していることから、景気は変わらない。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の販売量は前年比マイナス2%であった。3か月前の12月の販売量はマイナス3%であり、前年を下回る状況が続いていることから、景気はやや悪い。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の完工時期を迎えている中、民間工事での新規受注工事が少なく、仕事量が減少している。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・中国を始め、海外との取引が多い企業を中心に、景気減速の影響が業績にも表れ出したと話す取引先がみられるようになってきている。
	司法書士	取引先の様子	・市内の積雪がゼロとなるなど、長い冬期間が終わったことから、多少は不動産取引が増加すると期待していたが、10月に予定されている消費税増税が心理的に影響しているのか、期待するほどの駆け込み需要もみられず、先行きが心細い状況にある。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注案件の納入などで売上は順調に推移しているが、ベース商材の受注量が落ち込んできている。
	x 食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月はここ1年間で最も売上が少なく、前年比でも数パーセントの落ち込みとなった。そうした状況の中で、人件費、エネルギー費、物流費などの経費が高騰していることから、利益がマイナスとなっている。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人が堅調に増えている。中途採用については、営業、経理事務を中心に求人ニーズが急激に増えている。派遣についても、コールセンター、携帯ショップを始めとした販売系など、求職者に人気有余りなく、人材確保に苦労する職種でのニーズが底堅い。4月から改正される入管法についての問合せも増えており、外国人労働者に対するニーズも高まりをみせている。企業の経営状況はまだまだ堅調で人材不足が常態化している状況がうかがえる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・年度替わりということもあり、退職者の増えるタイミングになっている。企業では、卒業する学生、配偶者の転勤で当地を離れる主婦、契約が切れる契約社員などの穴を補充しようとする人材獲得意欲が強い。春先からの新しい仕事を求める求職者も活発に動いている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・農業関連では、ゴールデンウィーク明けの繁忙期に向けて、非正規の求人需要が増えてきているが、前年に比べて求人数が減っているとの声がある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・売手市場ではあるが、就職できていない大学生も意外と多い。一方で中小企業の正社員採用は苦戦している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新年度に向けて、求人募集数が増えてきているが、季節なりの増え方にとどまっている。外国人観光客の需要を見越したホテルの新規オープンなどの明るい材料も一部にはあるが、波及効果は余りみられない。求人ニーズが低いわけではないが、人が集まりづらい状況の中で、今まで以上に企業が費用対効果に敏感になってきている。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	周辺企業の様子	・今年の冬の雪が少なかったことの影響で冬物衣料の販売が不調である。また、除雪業者などへの発注量が激減したことで、消費の動きにも減退ムードがみられている。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・月間有効求人数が6か月連続で前年を下回ったが、月間有効求職者数が7年4か月連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は1.11倍と8年12か月連続で前年を上回った。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・2月の有効求人倍率は1.16倍であり、前年を0.06ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・大型小売店舗の閉店に伴う従業員の失業や5月オープン予定の施設への応募を希望する求職者の増加などで、新規求職者が4か月ぶりに増加し、有効求職者も2か月ぶりに増加している。このため、有効求人数は前年並みであったが、有効求人倍率が前年を大きく下回った。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・各企業の新卒採用意欲は一昨年や前年と比較しても、ほぼ同様の意欲の高い状況にあり、4～5月にかけてもこの状況が続くとみられる。特に今年はB to Bの企業よりもB to Cの企業の採用意欲が高く、個人消費が若干上向きにあることが影響しているとみられる。
	-	-	-
x	-	-	-